

米倉教公の月間為替市場見通し

5月号

『中期的には下落基調継続！』

ドル/円予想レンジ 105.00 - 113.40 円

ドル/円の5月勝敗表

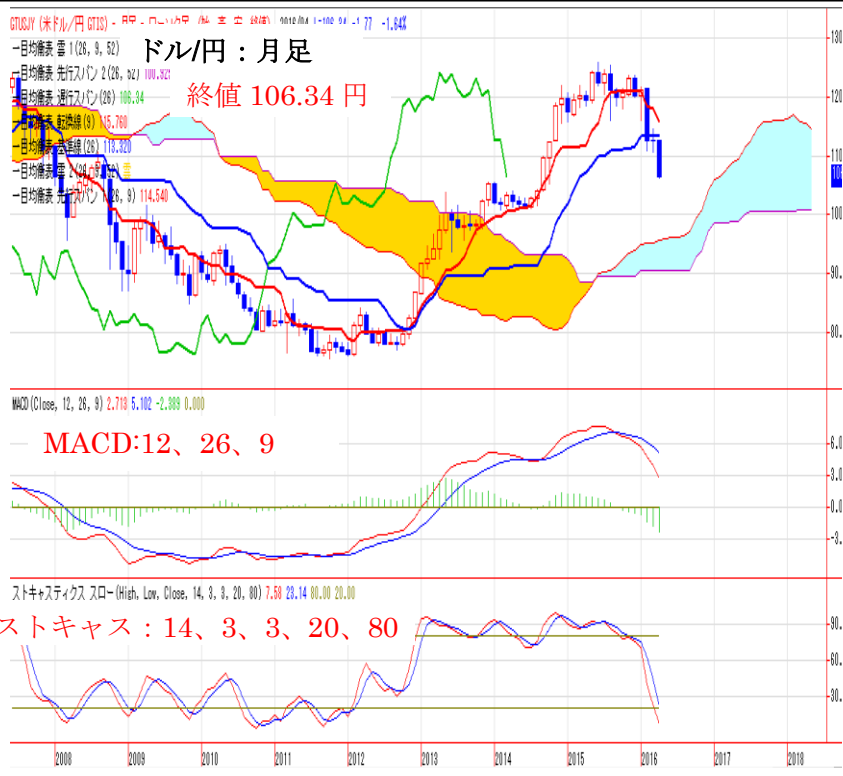
5月の相場	始値	終値	値幅	変動率	陽線・陰線
1995年	84.24	84.60	0.36	0.43%	陽線
1996年	105.00	108.04	3.04	2.90%	陽線
1997年	127.07	116.31	-10.76	-8.47%	陰線
1998年	132.70	138.75	6.05	4.56%	陽線
1999年	119.40	121.51	2.11	1.77%	陽線
2000年	107.86	107.62	-0.24	-0.22%	陰線
2001年	123.59	119.23	-4.36	-3.53%	陰線
2002年	128.49	124.09	-4.4	-3.42%	陰線
2003年	118.90	119.21	0.31	0.26%	陽線
2004年	110.38	109.43	-0.95	-0.86%	陰線
2005年	105.05	108.49	3.44	3.27%	陽線
2006年	113.66	112.56	-1.1	-0.97%	陰線
2007年	119.41	121.73	2.32	1.94%	陽線
2008年	103.86	105.53	1.67	1.61%	陽線
2009年	98.62	95.21	-3.41	-3.46%	陰線
2010年	93.84	91.29	-2.55	-2.72%	陰線
2011年	81.06	81.51	0.45	0.56%	陽線
2012年	79.8	78.32	-1.48	-1.85%	陰線
2013年	97.42	100.39	2.97	3.05%	陽線
2014年	102.22	101.74	-0.48	-0.47%	陰線
2015年	119.35	124.12	4.77	4.00%	陽線
平均			-0.11	-0.08%	11勝10敗

★5月は106円台前半からのスタート

1995年以降の過去21年間のドル/円では、11勝10敗と陽線・陰線がほぼ五分五分となっている。一方、値幅での平均値は11銭の円高（変化率は平均で▲0.08%）となっている。平均値なので、そんなに大きな変動ではないように感じるが、1997年では10.76円円高になったり、翌年は6.05円の円安になるなど大きな変動年もある。昨年5月も始値から終値で4.77円も円安となった。

ここ5年間では隔年で陽線・陰線となっている。ただ、4月の日銀政策決定会合で金融政策を現状維持で決定したことで、失望による急激な円高となったことから、政府・日銀による円高けん制策が実施される可能性があり、今年は陽線で終わる可能性が高そうだ。

※この勝敗表は単純に終値から始値を引いた数値となっている。また陽線を勝ち、陰線が負けとした。



★ドル/円月足では短期的な戻りは売りシグナル

一目均衡表月足チャートでは、4月は結局基準線まで届かず、十字線を挟んで大陰線で終了した。そして、MACD（パラメータ：12、26、9）では、ゼロラインの上方からデットクロスしている。また、ストキャスティクススロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、%K と %D が共に下向きとなっている。%K が20%割れとなってきているが、下向きを維持している。MACD や %K が横向きになるまでは、円安への回帰は難しい。ただ、%K が7.58%まで低下しており、売られ過ぎによる過熱感が出てきている。4月同様に中長期的な観点からは、短期的なドルの戻りは売りという状況だ。政府・日銀が円高けん制策を実施しても、上値が重くなると再び戻り売りに上値が抑えられる可能性が高い。29日から水星逆行が始まっていることから、ボラティリティが高まるので注意。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。